

3 せいかつ環境分野 プロジェクト

分野ビジョン

「すてる」をすてた地球にやさしい暮らし

みんなとっても買い物じょうず
みんなとってもやりくりじょうず
みんなとっても輝いています

「すてる」ことをやめて
みんなで勉強して
力を合わせてがんばったら
素敵なおまちになりました
素敵なくらしができるようになりました

これからも地球にやさしく、家計にやさしい
住みよいまち「いこま」で暮らしていきます

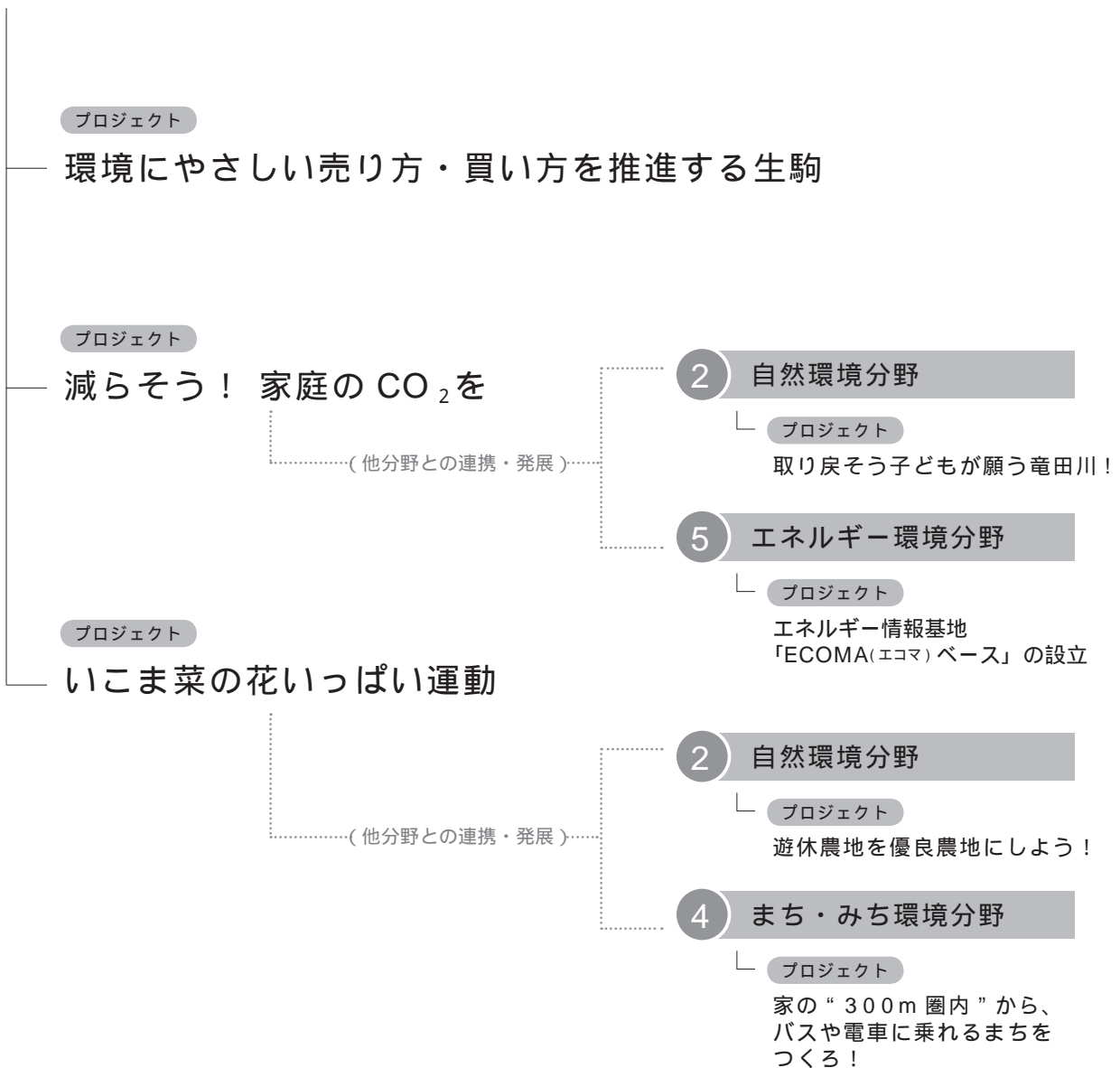
生駒市は利便性の高い住宅都市として宅地開発がすすめられてきました。人口の増加に伴い、生活環境に関する問題は、ごみ、生活排水、騒音など多岐に渡り、便利さを優先する日常生活は環境負荷を増大させています。

せいかつ環境分野で取り組むべき課題は数多くありますが、まずは市民一人一人が日常生活での行動を変えていく必要があると考え、日常生活の見直しと環境意識を高めることについてプロジェクトの具体化をすすめます。

生駒市では、平成15年度から大阪、京都、奈良の3府県11市の協働による「東大阪ブロック、京阪奈北レジ袋削減推進会議」に参画し、広域的、統一的にレジ袋削減キャンペーンを実施するなど啓発活動を行っています。また、生駒市環境地域協議会「ECOMA」においても、平成20年度からレジ袋削減を主要課題として、大型スーパー、コンビニエンスストア、百貨店による市内統一のレジ袋削減キャンペーン等、啓発活動に取り組み、平成21年1月には、市内大型スーパー9社12店舗、ECOMA、生駒市との三者協定を締結し、今後の協働によるレジ袋削減を始めとした様々な取組を実施していくこととしました。以上の取組とも連携、協力してプロジェクトを推進していきます。

プロジェクト一覧 / 展開 & 関係

3 せいかつ環境分野



プロジェクト名	環境にやさしい売り方・買い方を推進する生駒
ビジョン	マイバッグ持参が当たり前、エコなお買物達人がいっぱいの生駒
目的 <small>何のためにする活動か</small>	容器包装ごみ、ビニールごみを減らす。 「マイバッグ持参」「過剰包装削減」「無駄のない賢い商品の買い方」を推進
主体 <small>誰がするのか(協力が必要な人・団体も含めて)</small>	計画推進組織(仮称)、事業者、ECOMA、市民、NPO 市民団体、商工会議所、行政、農業者
対象 <small>どのような人、団体に向けた活動か</small>	市民、市内の事業者
効果 <small>どのような効果や影響が期待できるか</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭ごみの大きなウエイトを占める容器包装ごみの削減 ・市民の「ごみの減量化」「資源の節約」「CO₂削減」の意識高揚 ・確実に実践できる行動の手段提言

活動内容

「売り方」「買い方」の2つのプロジェクトの立ち上げ

1 環境にやさしい売り方……事業者が主で市民を巻き込み推進

1) レジ袋の有料化をめざすとともに、マイバッグ持参推奨を促進する。

「レジ袋有料化検討準備委員会」立ち上げ

委員会構成メンバー：市民、事業者、ECOMA、NPO 市民団体、商工会議所、行政
事業者と生駒市の間で「レジ袋有料化に関する協定」締結

マスコミ、広報、告知イベント、市内主要箇所の啓発ポスター等にて広報活動を行う。

生駒市内の賛同事業者の店舗で「レジ袋有料化」開始

認知及びレジ袋有料化の拡大策の検討、実施

市民も事業者も「マイバッグ持参、レジ袋不要は常識」の輪を拡大していく。

2) 「バラ売り」「トレー削減」「量り売り」「少量販売」「環境に配慮した容器包装素材」等々も合わせて、検討していく。

2 環境にやさしい買い方……市民が主で事業者も巻き込み推進

1) 環境にやさしい取組について、買う側と売る側の意見交換会の場の設置

市民、事業者、ECOMA、NPO 市民団体、学識者、行政等が「生駒環境推進委員会」(仮称)で「環境にやさしい取組について」の意見交換会・勉強会の場を設置する。

2) 環境にやさしい取組をしている市内事業者、事業所を市民の手でまとめ、市民に広く紹介。

レジ袋削減、地産地消、容器包装削減、エコ商品コーナー等を調べあげ、手作り新聞を発行して、広く市民へ情報発信。楽しく、わかりやすく、楽しめるガイドブック「生駒お買物ミシュラン」(仮称)を発行。

3) 市民の知恵袋的な事例集「賢いエコロジーなお買物術」(仮称)を発行。

↓
売る側と買う側の意見交換の場を継続的に設け、実験的な取組も行う。

「事業者の取組」「市民の環境にやさしいお買い物術」も広く認知され、楽しんで取り組まれている。

課題

- » ものを大切にする生活を広めよう。
- » ごみを減らそう、資源を大切に使う。

問題

- ・ ものを大切にするライフスタイルになっていない。
- ・ ごみが多い。資源の無駄づかいが多い。

地球にやさしいということは、私たちにとってもやさしいということ。
私たちにやさしいことは、安全であること。
安全なものを買う、そして買うことは、とても大事なこと。
人にやさしくすることが、地球にやさしくできるとしてすてきなこと
と思いませんか。

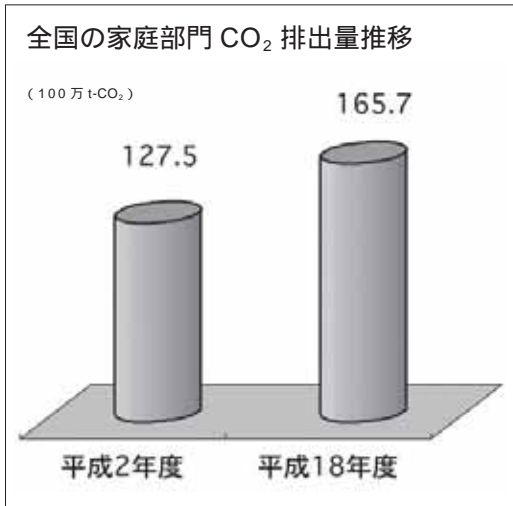


ECOMA：生駒市環境地域協議会「ECOMA」(通称 ECOMA) 27 ページ参照

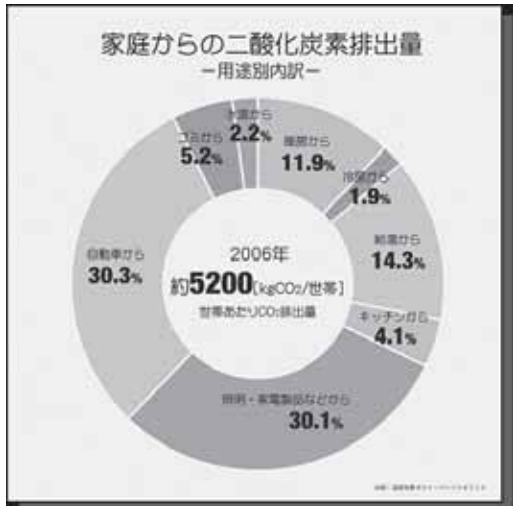
プロジェクト名	減らそう！家庭のCO ₂ を
ビジョン	楽しく実践、家計にもやさしい、環境負荷の少ないエコな生活
目的 <small>何のためにする活動か</small>	家庭での資源の無駄づかいをなくし、効率よく利用することによりCO ₂ を減らしていく。
主体 <small>誰がするのか（協力が必要な人・団体も含めて）</small>	計画推進組織（仮称）市民、事業者、行政（環境政策課）、ECOMA、NPO市民団体、自治会
対象 <small>どのような人、団体に向けた活動か</small>	市民、事業者、NPO市民団体、自治会
効果 <small>どのような効果や影響が期待できるか</small>	・エネルギーの効率利用に関する意識が高まる。・家庭でのCO ₂ 削減につながる。
活動内容	
<p>第1段階 生駒版環境家計簿を作成</p> <p>（1）環境家計簿を市内に広め、家庭のCO₂削減活動を推進するため「生駒市環境家計簿推進会議」（仮称）を設置する。</p> <p>（2）「生駒市環境家計簿推進会議」にて、地域や他府県で活用されているものを参考にして「生駒版環境家計簿」を作成する（平易で書きやすいもの）。</p> <p>（3）作成した「生駒版環境家計簿」について、推進会議メンバーや生駒市職員、モニターに実際に付けていただき、ご意見をいただく。</p> <p>第2段階 環境家計簿の各家庭への普及（環境家計簿の認知とCO₂排出量の自覚）</p> <p>環境家計簿をつけることによって、どれだけCO₂を排出しているか知ってもらう。知ってもらうだけでもCO₂削減につながっていく。</p> <p>（1）「生駒版環境家計簿」についてモニター地区（自治会）を選定し、実践してもらう。</p> <p>（2）イベントに推進会議メンバーが参画 展示ブースを設置してPRする。</p> <p>（3）環境家計簿の登録目標や家庭のCO₂削減目標について検討、設定する。</p> <p>第3段階 「生駒版環境家計簿」を市内の家庭により浸透させ、かつ継続していくための仕組みづくり</p> <p>（1）省エネ診断、チェックシートなどを活用し、取り組みのポイントを広報紙等で紹介、実践を推奨していく。</p> <p>各家庭の省エネ診断については、エネルギー環境分野のプロジェクトと連携しながらすすめていく。</p> <p>（2）自治会など地域の取り組みを紹介してもらう発表会（コンテスト）を開催する。</p> <p>（3）家庭のCO₂削減アイデアの中から、アイデアコンテストを行う。</p> <p>（4）各家庭で実践可能なものをピックアップし、各家庭に推奨していく。</p> <p>例・グリーンカーテンコンテスト・雨水利用方法コンテスト</p> <p>第4段階 市内のどの家庭でも環境家計簿が浸透、CO₂排出量を意識し、年々CO₂排出量が低減できている（環境家計簿の定着）。</p> <p>（1）環境家計簿の登録目標や家庭のCO₂削減目標が達成できている。</p> <p>（2）登録した家庭のCO₂排出量のデータを活用し、市民にPRしていく。</p> <p>（登録された家庭のデータを集約。CO₂排出量を1家庭あたりで算出し、年々の数値の推移や1990年レベルとの比較を行い、削減度を実証してみる）。</p>	
課題	<p>」 資源を大切に使う。</p>
問題	<p>・ 資源の無駄づかいが多い。</p>



家庭で使用したエネルギー量（電気・ガス・水道・ガソリンなど）を記録し、排出したCO₂をチェック



出典：温室効果ガスインベントリオフィス



出典：温室効果ガスインベントリオフィス
資料：全国地球温暖化防止活動推進センターホームページから



ECOMA：生駒市環境地域協議会「ECOMA」(通称 ECOMA) 27 ページ参照

プロジェクト名	いこま菜の花いっぱい運動
ビジョン	循環型のくらしができ、BDFで車が走り、菜の花いっぱいの生駒
目的 <small>何のためにする活動か</small>	地球温暖化の原因となっている温室効果ガスの発生を抑制するために、菜の花を栽培し、廃食用油（使用済みてんぷら油など）を回収して生駒市のなかで資源として循環させる。
主体 <small>誰がするのか（協力が必要な人・団体も含めて）</small>	計画推進組織（仮称） 市民（休耕田を持つ地主を含む。）、事業者、行政、菜の花いっぱい市民プロジェクトチーム（仮称） NPO、市民団体
対象 <small>どのような人、団体に 向けた活動か</small>	市民、事業者、市民団体
効果 <small>どのような効果や影響 が期待できるか</small>	<ul style="list-style-type: none"> • 菜の花の栽培が広がると遊休地の活用が進み、生産者と市民の交流が生まれ、身近な自然環境を考えるきっかけになる。（環境教育） • 家庭の廃食用油を回収することで、生ごみが減り、焼却処分する際のCO₂の発生や大気汚染・焼却炉を傷める原因などが少なくなり、河川の浄化にもつながる。 • 回収された油をバイオディーゼル燃料（BDF）にし、使用することで資源として循環され、地球温暖化防止に役立つ。 • 環境にやさしいBDFを市内のバスやごみ収集車などに使用することで、生駒市の資源循環型の社会を実現 • 市民・行政・事業者の協働のネットワークの組織化

活動内容

生駒市 BDF 利活用研究会と連携してすすめる。

- 1 育てる。
菜の花畑（休耕田の活用） 自然環境分野プロジェクト「遊休農地を優良農地にしよう」と連携
- 2 活用する（学ぶ）。
菜の花の種をまき、育てる過程を楽しみ、収穫を行い、菜種油をつくる。
この流れを体験することで自然環境教育を考えるきっかけになる。
- 3 集める（廃食用油を回収）。
 - （1）第1段階
「菜の花いっぱい市民プロジェクトチーム」（仮称）を立ち上げる。
安定化供給に向けて、現在の回収拠点を整備する。
 - （2）第2段階
新たな回収拠点づくりをめざし、市民・事業者・既存の団体に呼びかけネットワークを形成。
新たな回収協力の呼びかけと受け入れ体制を整備する。
各家庭に向けた啓発活動を行う。
 - （3）第3段階
家庭から出される廃食用油は全て、捨てずに回収を行う。
- 4 利用する（環境にやさしいバイオディーゼル燃料＜BDF＞に再利用）。
 - （1）第1段階
廃食用油の精製方法を検討。（BDF利活用研究会）
市内コミュニティバス「たけまる号」に導入。
 - （2）第2段階
廃食用油回収拠点数が増え、安定した量の回収ができる。
BDF精製の独自プラントや市内民間企業との協力体制の確立。
 - （3）第3段階（持続可能な仕組みの実現）
ごみ収集車への導入などBDFの利用拡大。
「菜の花を育て、油を絞る、廃食用油を回収し、エネルギー化する」という循環型の仕組みを実現

課題

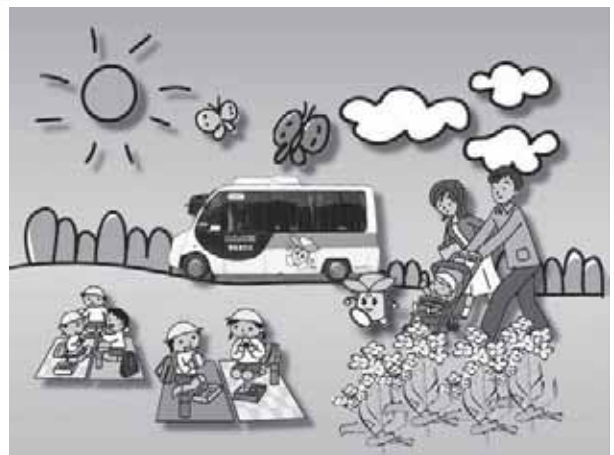
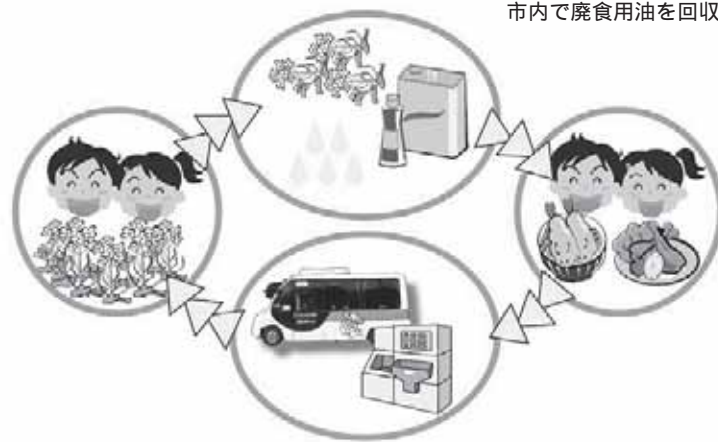
- » 資源を大切に使う。
- » 体系化した環境教育を広めよう。

問題

- 資源の無駄づかいが多い。
- 環境教育の体系化がなされていない。



市内で廃食用油を回収している風景



きれいに咲いた菜の花からできた油で、おいしい食事をつくる。
 使った油でバスが走る。
 そのバスに乗って食材を買いに行き、おいしい食事をつくる。
 循環は一方通行ではなく、
 それぞれ相互につながっているんだよ。